



## 塔の腰廃寺 とうのこしはいじ

所在地 岐阜県吉城郡古川町上町セリ田 よしきぐんふるかわちょうかんまちせりだ

岐阜県吉城郡国府町広瀬町塔の本、塔の前 よしきぐんこくふちょうひろせまちとうのもと、とうのまえ

立地環境 古川盆地の南東、宮川と荒城川との間の、少し微高地になった平地に立地。

発見遺構 この寺の心礎と推定される礎石が、古川町円光寺に残されている。

発見遺物 単弁九弁蓮華文軒丸瓦(1)、単弁十弁蓮華文軒丸瓦(2)、三重圈縁単弁十弁蓮華文軒丸瓦(3)、四重弧文軒平瓦(4)。昭和 30 年の土地改良時に多くの瓦が出土した。

年代 7 世紀後半

遺跡の概要 古くからこの地に瓦が出土し、国分尼寺とする言い伝えもある。塔の前、塔の本の小字が以前はあった。現在は区有地 120 坪が残り、大坪東平の名作大日如来をまつて、「大日の森」と呼ばれている。

## <引用文献>

国際古代史シンポジウム実行委員会編集『国際古代史シンポジウム・イン・矢吹「東アジアにおける古代国家成立期の諸問題」飛鳥・白鳳時代の諸問題Ⅱ』151 頁 国際古代史シンポジウム実行委員会発行 平成 8 年

東海埋蔵文化財研究会『古代仏教東へ ― 寺と窯』寺院 第 9 回東海埋蔵文化財研究会岐阜大会 1992



0001\_北側位置



0002\_北側位置



0003\_北側位置



0004\_北側位置



0005\_北側位置



0006\_北側位置



0007\_北側位置



0008\_北側位置



0009\_北側位置



0010\_北側位置



0011\_北側位置



0012\_北側位置



0013\_遠景・北東側から



0014\_遠景・北東側から



0015\_遠景・北東側から



0016\_遠景・北東側から



0017\_遠景・北東側から



0018\_遠景・北東側から



0019\_遺跡内・四方



0020\_遺跡内・四方



0021\_遺跡内・四方



0022\_遺跡内・四方



0023\_遺跡内・四方



0024\_遺跡内・四方



0025\_遺跡内・四方



0026\_遺跡内・四方



0027\_遺跡内・四方



0028\_遺跡内・四方



0029\_遺跡内・四方



0030\_遺跡本体、説明板



0031\_遺跡本体、説明板



0032\_遺跡本体、説明板



0033\_遺跡本体・周囲



0034\_遺跡本体・周囲



0035\_遺跡本体・周囲



0036\_遺跡本体・周囲



0037\_遺跡本体・周囲



0038\_遺跡本体・周囲



0039\_遺跡本体・周囲



0040\_遺跡本体・周囲



0041\_遺跡本体・周囲



0042\_遺跡本体・周囲



0043\_遺跡本体・周囲